

## 日本気象協会 2022年 春の花粉飛散予測(第4報) ～九州地方全域でスギ花粉の飛散開始！ いよいよ花粉シーズンへ～

### ◆2022年 春の花粉飛散予測のポイント(2022年2月17日 発表)

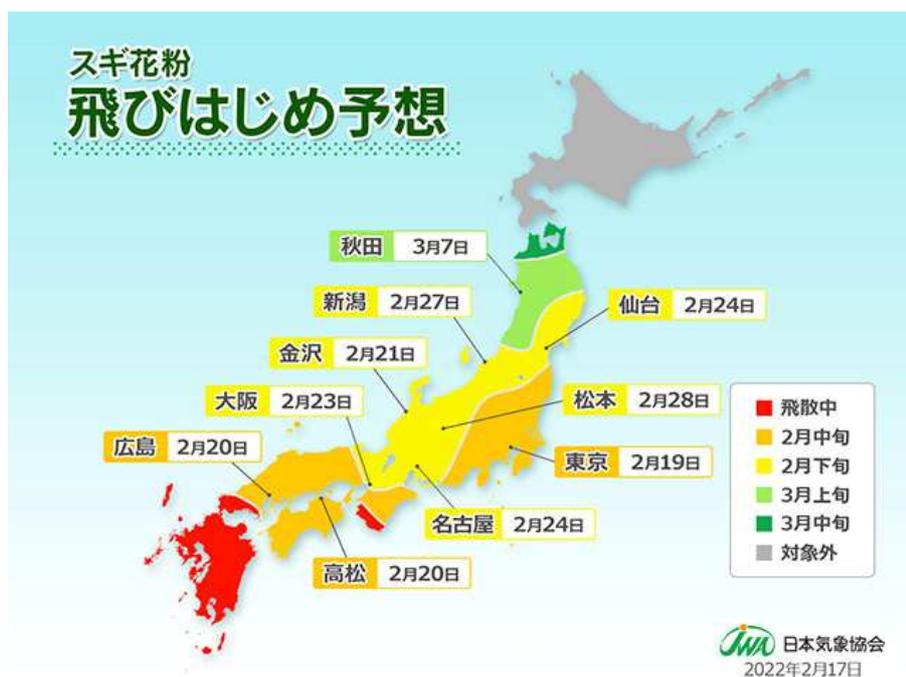
- ・九州地方全域で飛散開始
- ・2月に入ってからの寒気の影響で、飛散開始が遅れているところも
- ・スギ花粉のピークは、大阪は3月上旬から中旬、東京は3月中旬から下旬の見込み

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、理事長:長田 太)は、2022年2月17日(木)に全国・都道府県別の2022年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第4報)を発表します。また、詳細な情報を、「2022年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

### 1. スギ花粉の飛散開始時期

2月9日～14日にかけて九州地方全域でスギ花粉の飛散が始まりました(※)。15日には福岡県内で、1平方センチメートルの飛散量が100個を超えたところがあり、本格的な花粉シーズンが始まっています。この先、広島や高松、東京では2月中旬までに、大阪や名古屋、仙台などでは2月下旬には飛散開始となるでしょう。

2月に入り、周期的に寒気が流れ込んできています。2月上旬は強い冬型の気圧配置となって寒気が流れ込み、日本海側を中心に大雪をもたらしました。その後、南岸低気圧の通過に伴って、太平洋側の地域でも雪や雨となりました。最新の一か月予報や、2月14日に気象庁から発表された「早期天候情報」によると、この先下旬にかけても、全国的に気温の低い日が続く見込みです。このため、飛散開始が例年より遅れているところが多くなっています。



※飛散開始日 1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日

## スギ花芽の様子



2月12日撮影 香川県丸亀市



2月16日撮影 茨城県守谷市

## 2. 各地のピーク予測

スギ花粉飛散のピークは、福岡は2月下旬から3月上旬、高松や広島、大阪、名古屋では3月上旬から中旬の予想です。金沢や仙台は3月上旬から下旬、東京では3月中旬から下旬となるでしょう。ピークの開始が例年よりやや遅くなる場所がある見込みです。

スギ花粉のピークが終わる頃になると、ヒノキ花粉が飛び始め、その後ピークが始まります。福岡や高松では3月下旬から4月上旬、広島では4月上旬の見込みです。大阪や名古屋、東京では4月上旬から中旬にヒノキ花粉の飛散のピークとなり、時期はほぼ例年並みでしょう。金沢や仙台は、4月を中心にヒノキ花粉が飛散しますが、飛散量は他の地点と比べると少ないため、はっきりとしたピークはない見込みです。

### 2022年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2022年2月17日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	スギ				■					
	ヒノキ							■		
広島	スギ				■					
	ヒノキ							■		
高松	スギ				■					
	ヒノキ							■		
福岡	スギ				■					
	ヒノキ							■		

JWA 日本気象協会

### 2022年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2022年2月17日発表

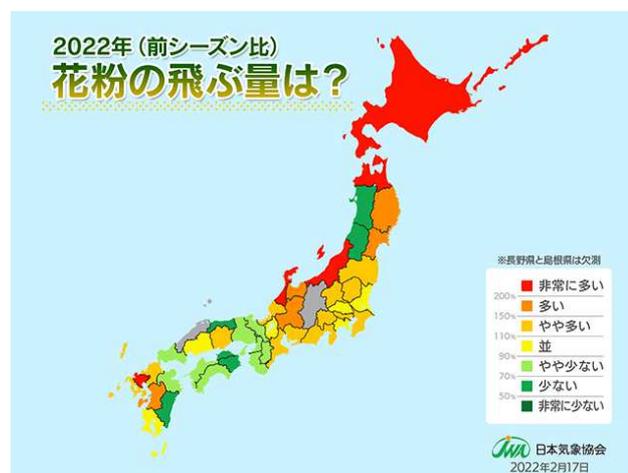
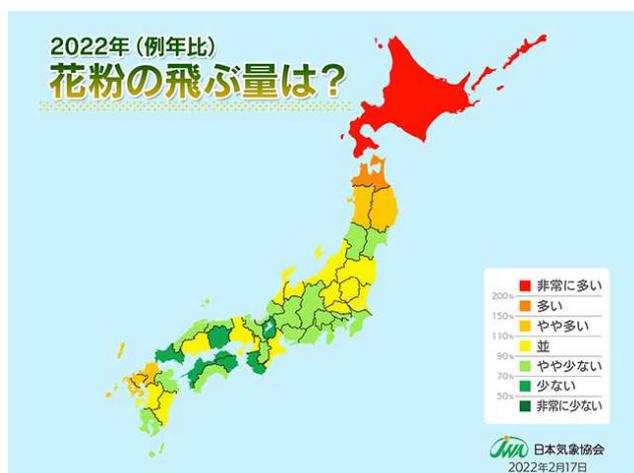
地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
仙台	スギ				■					
	ヒノキ									ピークなし
東京	スギ				■					
	ヒノキ							■		
名古屋	スギ				■					
	ヒノキ							■		
金沢	スギ				■					
	ヒノキ									ピークなし

JWA 日本気象協会

## 3. 2022年シーズンの花粉飛散傾向

例年比で見ると、九州や北陸、関東甲信では例年並み、四国、中国、近畿、東海では例年より少ない見込みです。一方、北海道は例年より非常に多く、東北ではやや多くなるでしょう。

一方、前シーズン比で見ると、九州や東北は地域差が大きく、四国、中国、近畿の飛散量は少なく、東海、北陸、関東甲信、北海道は前シーズンより多い見込みです。九州や北陸、東北、北海道では非常に多く飛ぶ地域もある見込みです。前シーズンは症状が弱かった方も万全な花粉症対策が必要になりそうです。



#### 4. 各地域の花粉飛散傾向

地方	飛散量				2021年夏の気象		
	例年比	地方平均値	前シーズン比	地方平均値	気温	降水量	日照時間
北海道	非常に多い	220%	非常に多い	310%	かなり高い	かなり少ない	かなり多い
東北	やや多い	110%	やや多い	120%	かなり高い	平年並	多い
関東甲信	例年並	90%	やや多い	110%	高い	かなり多い	平年並
北陸	例年並	90%	多い	170%	高い	平年並	多い
東海	やや少ない	80%	やや多い	130%	高い	多い	平年並
近畿	やや少ない	70%	やや少ない	70%	平年並	かなり多い	平年並
中国	やや少ない	70%	やや少ない	80%	平年並	かなり多い	平年並
四国	少ない	60%	やや少ない	70%	低い	多い	平年並
九州	例年並	90%	前シーズン並	100%	平年並	多い	平年並

#### 5. 飛散量の予測根拠

花粉の飛散量は前年夏の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の飛散量が多くなるといわれています。

日本気象協会では、気象データに加え、前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などのデータ、および全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽調査の結果などをふまえて予測しています。花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」や、花粉の研究に長年携わっている学識者の協力を得ながら、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。

## 6. スギ花粉のライフサイクル

スギ花粉は1年間を通じて、生長・形成・開花を経て、花粉を飛散します。飛散した花粉からまた生長が始まります。



### 【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

### 【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	:前シーズン(例年)の200%以上
多い	:前シーズン(例年)の150%以上200%未満
やや多い	:前シーズン(例年)の110%以上150%未満
前シーズン(例年)並	:前シーズン(例年)の90%以上110%未満
やや少ない	:前シーズン(例年)の70%以上90%未満
少ない	:前シーズン(例年)の50%以上70%未満
非常に少ない	:前シーズン(例年)の50%未満

---

前シーズン	:2021年シーズン飛散量
例年	:過去10年(2012~2021年)の平均値

### 【2021年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	:1991~2020年の平均値
----	-----------------

### ◆日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は1990年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は、前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

※本情報の無断での法人利用(プレスリリースでの引用や販促目的使用など)はご遠慮いただいております。商品PRなどで法人利用をご検討の際はお問合せフォーム(<https://www.jwa.or.jp/contact/>)からご連絡をお願いします。